azabu sukoyaka tsusin vol.41

# 麻生すこやか通信 VOL.41

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 広報誌　2022年1月

理事長
齋藤 久泰
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会認定専門医
脳卒中の外科学会技術認定医
北海道大学客員研究員

## コロナ時代 今こそネバーギブアップの精神を

新年おめでとうございます。昨年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催、札幌でもマラソン競技が行われ、日本選手の活躍が大きな話題となりました。一方、一昨年同様、私たちの生活は新型コロナウイルスにより大きな制約を受けた大変な１年でした。

第４、５波の際には、札幌市も新型コロナ病床がひっ迫し、医療崩壊の危機が連日ニュースで報じられました。脳外科救急に携わっている複数の病院でもクラスターが発生し、たくさんの行き場を失った患者さまを残された病院で対応しなければならず、当院でも通常の1.5倍の救急車を受け入れ、多くの患者さまの処置にあたりました。昭和60年の開院以来、「患者さま第一」を理念とし、「ネバーギブアップ、あきらめない医療」を実践してまいりました。今回の危機も医療プロフェッショナルとしてのプライドを胸に、ネバーギブアップの精神で頑張ってくれた職員達を誇りに思っています。札幌市の救急医療に貢献し、少しでも地域の皆様のお役に立てたとすれば、大変光栄に思います。

当院では、救急医療はもとより脳血管障害、脳腫瘍、脊髄・末梢神経疾患など、脳神経外科の各部門の専門医が診療にあたっています。また、北海道大学脳神経外科とも連携し、最善の医療提供に努めています。特に、年間約600件の手術のうち半数を占める脊髄疾患（脊髄腫瘍、頚椎症、椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄など）は全国から多くのご紹介を頂いています。当院の飛驒一利院長は、昨年6月に日本脊髄外科学会の理事長に就任し、日本のトップリーダーとして活躍しています。

昨年は、脳腫瘍手術などで欠かせない術中ナビゲーションシステムを最新機器に更新し、最新の超音波手術器を道内で一番に取り入れるなど、手術機器導入も随時行っています。これからも地域の人々に寄り添う信頼される病院をめざして、職員一同励んでまいります。今後もご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

脳神経疾患に特化した
質の高いリハビリテーション

# 麻生の回復期リハビリテーション病棟の特色

## 回復期リハビリテーション病棟とは…

脳血管疾患、脊髄疾患の術後などの患者さまに対し、リハビリテーションを集中的に行い、可能な限りの生活機能の改善と、在宅復帰、社会復帰を目的とする病棟です。

医師・看護師・介護スタッフ・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカーなど多くの専門職がチームを組み協働して、より良い生活を目指し支援していきます。

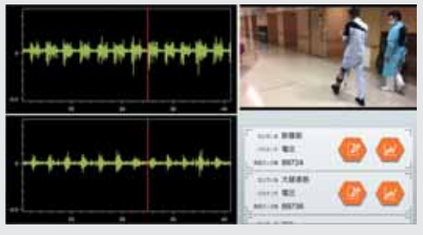
## 当院の回復期リハビリテーション病棟の実績

| | 当院（2020.10.1 現在） | 全国平均（回復期リハ病棟協会調査 2019.7） |
|---|---|---|
| 在宅復帰率 | 88 % | 79.4 % |
| 脳血管疾患の割合 | 100 % | 45.1 %（46.4% は整形外科疾患） |
| 1日当たりの患者さまへの提供単位数 | 8.12 単位 | 6.39 *1単位とは 20 分のリハビリの事です |
| リハビリテーション実績指数 | 50.5 | 41.4（中央値） |

## 理学療法科　歩行再獲得の支援

理学療法科では、各種歩行補助具や下肢装具を取り揃えており、意識障害や重度の麻痺を抱えている患者さまにも、病状に合わせながら積極的な立位練習や歩行練習を行っています。筋電図を用いた歩行評価も新たに導入し、患者さまに効果的なリハビリを提供できるよう研鑽に努めています。

また、地域の脳卒中後遺症の方のフォローアップとして、装具外来を新たに開設しました。理学療法士、義肢装具士協働のもと、下肢装具の修理や再作製の援助に取り組んでいます。



## 作業療法科　自動車運転の再開の支援

脳卒中による高次脳機能障害は運転能力の低下を引き起こします。退院後に運転を再開したいときは、運転可能な高次脳機能が保たれているかを神経心理検査、自動車運転シミュレーターを用いて評価を行っています。

また、入院中に運転不可となっても、退院後に３泊４日の入院で再評価を行うことが可能です。

## 言語聴覚科　経口摂取再開の支援

言語聴覚科では「食べたい思い」に寄り添ったリハビリテーションに力を入れて実践しており、全国規模の学会発表を毎年行うなど研鑽に努めています。患者さまお一人お一人の嚥下機能に合わせた食事形態への配慮、リハビリに加え、必要に応じて、安全に食事が摂取出来ているかを内視鏡を使用し医師が検査を実施しています。

また、段階的に食事形態が向上出来る様、2020 年には新たに嚥下リハビリの機器を導入しています。これからも美味しく安全に食べられる支援を続けていきます。

嚥下リハビリテーション用電気刺激装置

# ドクターご紹介

Doctor introduction

医師　下田 祐介

札幌に生まれ、北海道大学で医学を学び、北海道大学病院・釧路労災病院・旭川赤十字病院・北海道医療センターなどの勤務を経て、2021年（令和3年）9月1日付で着任しました。脳神経外科専門医・脳卒中専門医・脳神経血管内治療専門医として脳卒中の治療に従事しています。

脳卒中診療を通じて社会貢献を実践していけたらと考えておりますが、私一人では何も成し遂げることはできません。院内の皆様、一人ひとりにお力添えを頂き、チームとして一丸となることではじめて実践できるものと思います。

万事において個々の力を存分に発揮できる一枚岩の「チーム麻生脳神経外科病院」の一員となれるよう、1日でも早く馴染めるよう、院内の皆様とコミュニケーションを密に積み重ねていけたらと思う所存です。「声を出していこう！」を合言葉に、よろしくお願いします！！

2006年　北海道大学医学部卒。北海道大学脳神経外科入局。 2016年北海道大学大学院博士課程で学位を取得。北大病院および関連病院において臨床研修を行い、釧路労災病院、旭川赤十字病院、北海道大学病院、渓和会江別病院、北海道医療センターに勤務。2021年9月より札幌麻生脳神経外科病院へ勤務。
日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会認定専門医、日本脳血管内治療学会認定専門医

## 編集後記

今号は回復期リハビリテーション病棟についてご紹介致しました。当院では自宅や社会に戻ってからの生活を安心して過ごせるよう、在宅復帰にむけてさまざまな取り組みを行っており、在宅復帰率も全国平均を上回っています。ぜひご参考になさってください。新年を迎えましたが、変異株が流行し、まだまだ厳しい状況が続きそうです。今年も職員一同、気を引き締め、ネバーギブアップの精神で乗り越えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。


## 医療法人
## 札幌麻生脳神経外科病院

〒065-0022 札幌市東区北22条東1丁目1-40
TEL 011-731-2321（代表） FAX 011-731-0559
ホームページ http://www.azabunougeka.or.jp


### 交通アクセス

- 地下鉄：南北線 北24条駅下車
  （2番・3番出口から徒歩約7分）
- 中央バス：「北21東1」下車、徒歩約2分
- 中央バス：「北24東1」下車、徒歩約2分

ホームページ

### 当院へのバス路線 中央バス

屯田線02・新琴似線09・あいの里・篠路線22
篠路駅前団地線36・ひまわり団地線28
花川南団地線14・花畔団地線16・元町線東70
石狩線・石狩線（トーメン団地行）・札厚線・札浜線（特急）

### ※お間違いないようご注意ください

- 往路と復路とで停留所の異なる路線があります。
  新琴似線09・花川南団地線14・花畔団地線16・石狩線・石狩線（トーメン団地行）
- バス停「北24条東1丁目」は旧石狩街道・石狩街道・宮の森北24条通の3カ所あります。